

市川の空気を調べる会

通信 13 号 2018年3月14日(水)



発行 市川の空気を調べる会 代表 鈴木一義

電話&FAX : 047-373-8369 E-mail : kazu38yoshi@eos.ocn.ne.jp

★ 2017 年 12 月度 NO₂ 測定結果の概要

定例測定日の 11 月 30 日(木)は曇りのち小雨、12 月 1 日(金)は曇り時々小雨で共に弱風で雨量は 0 でした。有効測定数は市川市内(他市の一部隣接地を含む)341 件、市外は関さんの森 100 件その他 17 件でした。

市川市内測定結果

12 月度の市内全域と住宅地、沿道地別の平均濃度とその推移を図 1 に示します。

図 1 市川市内の 12 月度 NO₂ 平均濃度(ppm)の年度推移

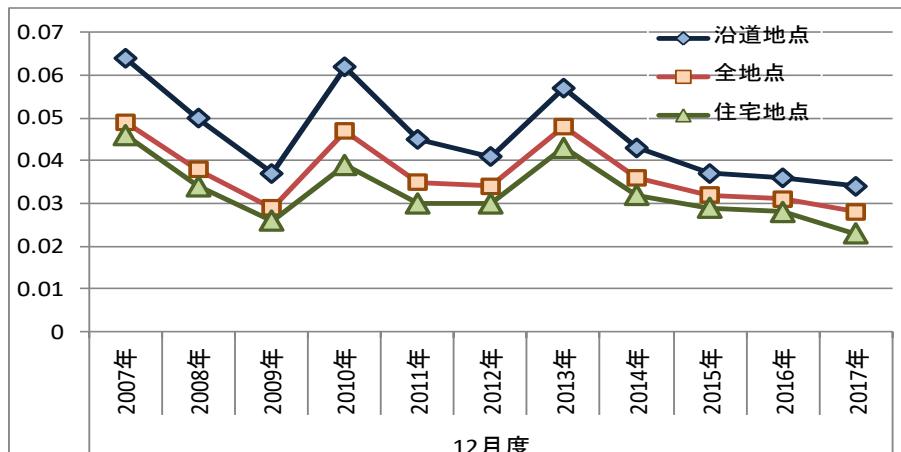
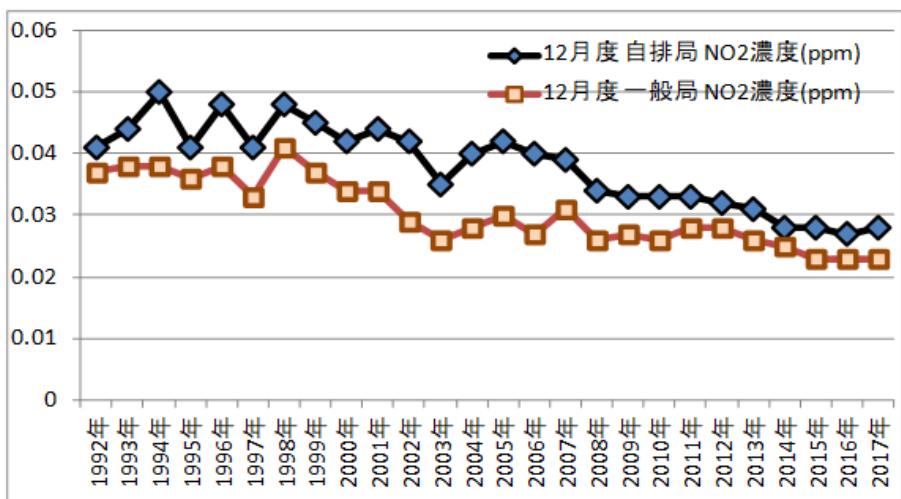


図 2 市川市測定局の 26 年間の 12 月度 NO₂ 濃度(ppm)の変化



今回の定例測定日は、市川市測定局の平均で見ると周辺に比べ低めの日でしたが、これも反映してか、私たちの測定値は図 1 の通り、これまでの最低であった昨年度よりも沿道地、住宅地とも更に低濃度となりました。

この時期の NO₂ 濃度をもっと長期の平均で見ると、図 2 は 1992 年からの市川市測定局(一般局と自排局各 2 局の平均)の 12 月度定例測定日周辺 24 日間の NO₂ 平均濃度の推移です。自排局の値が昨年より少し上昇し、私達の測定値とは少し異なる結果となっています。(詳しくは総会時に発行される年度測定報告書をご覧下さい。)

総会・講演会のお知らせ

日時：2018年3月31日(土)13時～16時

場所：市川公民館（JR市川駅北口徒歩5分、大門通り入口）第1会議室

◇ 2018年度総会 13時～13時30分（会員、賛助会員の皆さまのご参加をお願いします。）

◇ 報告と講演会 13時40分～16時 参加自由、参加費無料

○ 2017年度測定結果報告 13時40分～14時10分（測定報告書を差上げます。）

○ 2018年度講演会 「四日市公害に導かれて－自己解放の旅－」

14時10分～15時10分 粟屋かよ子 様（CSO 環境よっかいち 代表）

○休憩を挟んで質疑と自由討議 15時10分～16時

四日市の公害に導かれて—自己解放の旅—

私の児童期＝小学校時代の1950年代前半は、戦後の混乱期は脱しつつも大人たち＝教師も親も一は子どもをどう育てるべきか自信がなく（私の母の言葉）、そんな中で私たちは勝手にひたすら山と川と原っぱを駆け巡り、内発的充実感に満ちた生を謳歌しました。その後の高度経済成長・公害列島化と企業戦士をつくる受験体制に翻弄されながらも、私を最終的に導いたものは「あの子どもの頃の充実感をもう一度体験し取り戻したい」という渴望でした。

四日市に赴任した時は公害訴訟判決後2年に満たない時でしたが、既に公害は終ってしまったかのような雰囲気に覆われ、そこで隠された四日市の公害を発見するのに30年近くかかりました。私にとってそれは同時に、人類史上未曾有の危機的現代を発見する過程でもありました。まさに Think globally, Act locally です。

そして四日市におけるこの隠ぺい構造が、日本の環境後進性と通底していること、さらには日本人の意識構造「内発性の欠如」とも深い関わりがあるのではないかと思い至りました。こうして四日市の公害に導かれながら、現代の人類史的課題の解決と、私個人の自己解放とが別物ではなくなったのです。昨年の四日市公害訴訟判決45周年における市民ミュージカルの企画・上演は、その具体化のひとつでした。

四日市の空 1960年代



粟屋かよ子様略歴

1945年中国で生まれ、山口、岐阜県で育ち、奈良女子大理学部卒業後、名古屋大大学院で博士号（素粒子論）取得。翌年四日市に赴任し、環境物理学、教育学を研究。暁学園短期大学教授、四日市大学教授。退職後「CSO 環境よっかいち」代表。市民ミュージカル「四日市ラブソディー－その海と空と－」を企画し、原作、演出助手を担当して昨年、成功裏に公演。現在 日本環境学会幹事、四日市100才大学を計画中。

☆ あとがき

今回の通信は講演会の宣伝に使えるよう A4 としました。人が人らしく生きるために、持続可能な地球環境に思いを馳せる活動報告をどうぞお聞きください。粟屋さんは月間計測定の仲間です。

会費納入のお願い 2017年度会費がまだの方（振込用紙同封）はよろしくお願ひいたします。（以上）